

活動状況

生花苗沼シジミ保存会

通常は砂州で閉鎖されている生花苗沼では、一年に一度、重機で開口されて水位が下がり現れた干潟～浅場でシジミ手採の作業が行われます。活動組織では、この作業時に合わせて保護区を設定し、母貝と稚貝の採取～放流、モニタリング等の保全活動に取り組んでいます。



【活動組織の構成員、東京農大生も参加】

この活動は、元々は大樹漁協青年部の活動として行われていましたが、「沼の環境は、みんなで守ろう」との機運が高まり、青年部と共に一般漁業者や関係機関が活動組織の構成員となり、地域一体となった保全活動へ広がりました。

シジミの操業は、年一度、手採のみで行われており、北海道唯一の大型シジミ資源の維持を目指し、環境の保全への活動が進められています。



【手採だけのシジミ操業】



【モニタリング、放流貝の測定】



【採取された放流用稚貝】



【生物移殖、ジョレンで稚貝採取】